

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入社時に理念の説明を行う。目の付くところに貼り出している。ミーティングで声掛けをしている。	理念『一人一人の人生が輝くように！』は階段の踊り場に貼られており、職員が昇降するたびに目につくようになっています。日々の関わりの中で楽しいこと、できる事を見つけ、人生を大切にしたいという思いで関わっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	民生委員の方が「てのひらの会」等に、声掛けをして下さっている。	地区の文化祭では、皆で作った作品を展示しました。近所の方が野菜や果物を届けてくださっています。散歩時に近所の方とお話ができます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前は地域との交流を重んじ、福祉の集まりなども積極的に参加していたが、現状は高齢者様の身を守ることに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	書面での報告を行っている。	感染症への不安から、一堂に会しての運営推進会議は開催されていません。この2月に書面で現状の報告をしました。	万全の感染症対策を行いながら、地域密着型サービスとして運営推進会議を開催し、外部の人の意見や知恵をサービス向上に生かしていられるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	必要に応じ、連絡等を行っている。	運営推進会議に代わって、書面で現在の状況を報告しました。必要に応じて相談や連絡をとっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日頃から身体拘束をしないケアに努めている。月1回のミーティングでは利用者様の状況報告を行い、職員間で確認・検討をしている。	日頃より、拘束しないケアに努めています。チェックリストを使用して自己を振り返り、それをまとめてミーティングで話し合うようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティングにて、3か月に一度、虐待防止のアンケートを配布して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ミーティングで話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご利用者様のご家族の不安や問題点を話し合い、納得していただけるよう、分かりやすく説明をするよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見は聞いているので、ほぼ反映されている。	毎月、写真入りのななすぎだよりを家族に送って、利用者の様子をお知らせしています。面会時や通院の付き添いなどで、要望や意見をお聞きしています。利用者からは、日々の会話の中から把握するように努め、運営に反映するようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングの場で、各職員の意見を聞いて反映させるようにしている。	毎月、職員ミーティングが開かれています。施設設備の改善や利用者のおやつに対してなどの意見があり、検討しました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	プライベートを保てる働きやすい環境であるため、職員の希望休などが守られ、職員のやりがいの意思がみられる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	地域でのケアマネ研修の報告を受け学習している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現在は、同業者との交流は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者様の発する言葉をしっかり傾聴し、じっくり聞くことで関わりを大切にしたいと思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の大事な家族をお預かりしているということを念頭に置き、不安要素を可能な限り受け入れ、ご家族様やご利用者様との信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者様やご家族様の希望を考慮して、そこに到達できるベストな支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「人生の先輩であり、大切な存在である」利用者様と共に、時間の共有ができ、我が家のような雰囲気を感じていただけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者様やご家族様と良好な関係を築けるよう、ご利用状況の送付や常に連絡を取ることに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所やものを大切にして、ご利用様との会話の話題に取り入れている。	ホームは2階にあり、ベランダから見える懐かしい景色を見ながら、思い出話をしています。利用者に馴染みの深い近くの神社に散歩に行き、思い出話をしたりしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の関係も良好で、大きなトラブルもなく孤立せず、一緒に何かを行ったりできる支援を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所されたご家族様とは、下拭き用の布や野菜を持参してくれたりと交流がある。又ご家族様の近況を聞くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、思いを聞いたり訴えがある時はしっかり傾聴させてもらい、ご家族様に相談している。	会話は可能ですが、思いを聞き取る事は困難になっています。ゆっくり話を聞くように心がけ、聞き取ったことは記録に残して共有し、介護計画にも反映させています。内容によっては家族に相談しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートを中心に、新しく出てきた情報をご家族様に聞き取り、ご利用者様のこれまでの生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケア記録、経過記録、申し送り事項に目を通し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様やご家族様の希望や意向に伴い、現状に即した介護計画、必要に応じたケアを行っている。ミーティングでご利用者様の状況話し合い、利用状況に報告している。	日々の関わりの中や何気ない言葉の中から思いを把握し、家族からは面会時に希望を聞いて、その人らしい暮らしができる計画を作成しています。記録を職員間で共有して、モニタリングにつなげています。月に1回のミーティングで現在の状況を確認し、見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	大きな変化のない生活の中でケアの統一を図り、毎日のケアの気付きや工夫を共有しながら、実践や見直しに心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様やご家族様の現状のニーズに、可能な限りのサービスを提供させていただきよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティア「松川図書館」、笑い文字ボランティア等で交流ができています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の希望もあり、ご家族様に受診をお願いしている。受診までの様子を事前に話をするなどし、適切に医療が受けられるよう支援している。	今までのかかりつけ医に、家族の付き添いで受診しています。ホームでの様子や身体状況などがきちんと伝わるよう情報提供して、適切な医療が受けられるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の生活の中で情報や異変を共有し、速やかに報告して指示に従っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は概略情報を送り、入院中の様子についてはソーシャルワーカーの方が状況説明をしてくれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期のあり方としては、入所時に、基本的に看取りはしない方針をご家族に伝えている。病院等の移行については、主治医の意見を聞き、ご家族等の話を含めながら支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期ケアについての方針を説明し、了解していただいています。状況によって他施設等の申し込みや病院への入院なども含め、本人の暮らしの場を家族と一緒に検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ご利用者様急変の場合は、管理者の指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の防災訓練に参加している。	BCP(事業継続計画)は策定されています。避難場所はベランダですが避難訓練は実施されていません。	災害はいつ起こるかわかりません。職員一人体制の夜間や、極寒な場合など、どんな状況でも安全に避難できるマニュアルとそれに沿った訓練の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入職時に、接遇にかかわる研修を実施している。施設内に掲示もしている。ミーティングの中で、虐待防止について「アンケート」を取り、その中で話し合いをしている。	利用者本人の気持ちを第一に考え、意識するように努めています。半年に1回のアンケートをもとに職員研修を行い、日々の関わりを振り返るようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の意思を尊重している。生活のリズムの中で楽しく過ごしていただくこと、スタッフも楽しく関わることを重んじている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員がご利用者様の都合に合わせていくために、時間に追われず見守りをしながら、希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服の選択など、自分の意志で楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月2回のおやつ作りは、ご利用者様に聞きながら実施している。	行事食などは難しくなっていますが、おやつ作りはできることをやっただきながら続けています。ケーキのデコレーションやホットケーキ、大学芋などを楽しんで作っています。食器拭きを手伝ってくれる利用者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養のバランスは管理できている。飲水量もご利用者様により違いはあるが、管理できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは、ほぼ一人ひとり見守りをしながら出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排せつ記録を行い、情報を共有し、立位の可能な方は日中にトイレ誘導を行っている。	排泄のチェック表を使って、飲水量や排尿、排便回数などを把握し、時間などを見ながらトイレ誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排せつ記録を行い、食事量や飲水量を把握し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	週2回の提供、ご利用者様の体調や気分に応じ、気持ちよく入れるように支援している。	週2回は入浴できるようにしています。拒否が続く場合は清拭更衣しています。一般浴が難しい利用者は1階の特浴を利用しています。ゆっくり会話を楽しみながら、入浴していただけるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様の個々のリズムに沿って、休養は自由にいただいている。夜間は安心して眠れるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診報告の共有、目的や副作用など内服説明書に目を通し、全職員が把握できている。また服薬の症状、変化の様子をミーティングで話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月2回程行われている「おやつ作り」は希望を聞き、役割分担で皆と作業をすることで、楽しみ感を味わえていると思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候やご利用者様の体調を考慮して散歩に出掛けています。ベランダでお茶をしたり、草取りや野菜を収穫をしたりしている。外の空気にふれたり、景色を見たり、楽しんでいただいている。	遠出することは難しくなりましたが、状況を見ながら近くの神社まで散歩に出かけます。広いベランダに出てお茶を飲んだり、プランターの花や野菜の世話をすることもあります。遠くの山並みを眺め、季節の移ろいを感じることもできています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入所時に、ご家族様と話し合いをし、現状では現金の所持はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	遠方のご家族様から電話をいただいている。話をすることで気持ちが落ち着き、笑顔が見られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じやすい作品はテーマを決めて行い、飾ることで季節を理解して頂けるようにしている。居心地などを考え、共有空間にも身近な物を置くなどして、家のように生活感のある空間づくりの工夫をしている。	壁には、干支や季節の花、景色を現した手作りのタペストリーがたくさん飾られています。共有スペースは広く、日当たりも良好です。お雛様や生花が飾られていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室とホール、自室と居間的な区分をつけ、好きな時間に好きな事をしていただいている。十分な空間を持つことで、車イスの方でも移動しやすく、ご利用者様同士のコミュニケーションを作りやすい工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はご利用者様のプライベート空間である。ご利用者様によってお部屋に私物やベッドなどを自由に配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。写真や花を飾っている。	居室には時間がわかるように大きな時計がかかっています。乾燥を防ぐため居室に濡れたタオルをかけて対策しています。ご自身で書かれたカレンダーや塗り絵、作品が飾られていて落ち着いた居心地となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が送れるよう、転倒防止や事故予防に、危険物を排除し、生活の中での安全面は全職員が理解し、工夫して取り組んでいる。		